

七転八起

令和2年度 第1号

4月9日発行

新2年生の皆さん、進級おめでとうございます。皆さんのステージアップを心から祝福いたします。

確かに入学式や卒業式は節目にあたり、華やかでおめでたい感じがします。しかし、高校においては、進級もそれと同じくらいおめでたいことです。

さて、2年生に進級し、生徒の皆さんの環境も変わることだと思います。特にクラス替えが行われたことによって担任の先生や、周囲をとりかこむ級友の顔ぶれが変化することになりました。これをマイナスに受け止めるのではなく、むしろ自分の視野を広げることのできるチャンスだと考えてほしいと思います。

また、1年生の入学によって、皆さんは先輩としての役割を担うことになりました。普段の学校生活や部活動などで関わりあってくると思います。後輩たちの目標とされるような先輩になってください。

安心メールは受け取れていますか

昨年度よりスタートした学校と生徒・保護者間の緊急連絡システム「安心メール」は受け取れていますか。今回のコロナウイルスの感染拡大に伴い、生徒の皆さんの中にも、このシステムの重要性を再認識した人が多いのではないのでしょうか。もし、まだ登録をしていない生徒や携帯電話の設定変更等で受け取ることができない場合は、再度登録をしてください。

さらに、緊急時の情報は、本校のホームページにもアップされますので、普段からホームページをチェックするように心掛けてください。

2学年教員の紹介

	1組	2組	3組	4組
担任	末松 孝治	二瓶 顕人	小葉 雄一	梶原 忍
副担任	菊地 優太	蜂谷 雅人	武田 正志	菅野 忠信

上記の教員が学年指導にあたります。今年度、1年間よろしく願いいたします。

今後の予定

日付	予定
4月10日(金)	入学式(2学年生徒は登校しない)
13日(月)~17日(金)	臨時休校
20日(月)	通常授業開始(予定)
23日(木)・24日(金)	尿検査
25日(土)	基礎力診断テスト(1回目/全3回)
30日(木)	体位測定
5月11日(月)	クレペリン
15日(金)	ワックスがけ
28日(木)	新体力テスト

保護者の皆様へ

この度はお子様の進級、誠におめでとうございます。154名の生徒たちが2学年へと進級しました。

新年度からクラス替えが行われ、1年間慣れ親しんだ級友や担任と離ればなれになり、少し寂しい気持ちになった生徒もおりますが、心機一転、新たな気持ちで学校生活をスタートさせた生徒たちがほとんどのようで、私たち教員も安心しております。

私たち教員一同、力を合わせ、精一杯指導にあたりますので、今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

また、例年5月初旬に授業参観、PTA総会、保護者懇談会が開催されていますが、今年度につきましては、諸般の事情により、中止とさせていただきます。

新担任との懇談の機会がなくなりましたが、新担任と生徒の情報を共有しておきたいという方がいらっしゃいましたら、学校へご連絡いただければ幸いに存じます。

ご連絡

昨年度末、前期の選択科目教材費納入のプリントを配布いたしております。つきましては、内容をご確認のうえ、4月20日(月)までに新担任へ納入ください。科目によっては、分割納入いただくものもございますので、ご了承ください。

学年主任 末松孝治

昨今のコロナウイルス感染拡大防止対策による外出自粛要請が各地で出される中、本校の北沢又キャンパスにある桜の木には、今年も満開の花が咲き誇っていました。

未だかつてないウィルスの恐怖に翻弄される人間社会を淡々と生命の営みを続ける植物たちにはどう映っているのでしょうか。

さて、桜といえば、「お花見」という言葉が浮かんできますが、その起源は相当古くからあったようです。奈良時代は、花見の花といえば梅や萩などを指していましたが、平安時代には、容姿の美しさ、短命の儚さ、春を待ちこがれる感情から、貴族たちは桜を春の花の代表格として愛で、歌を詠み、花見の宴を開いて楽しんでいました。以来、この時季に咲き誇る花は、桃や菜の花など色々ありますが、日本人は桜を特別視するようになりました。

また、花見は豊作祈願の行事として、農民の間でも行なわれていました。桜は、春になって山からおりてきた田の神様が宿る木とされていたため、桜の咲き方でその年の収穫を占ったり、桜の開花期に種もみをまく準備をしたりしていました。

古代日本人の一番の願いとは、稲穂がたわわに実り、お米がたくさん収穫できることでした。春になると満開に咲きほこる「桜」を、秋の「稲穂」の実りに見立てて、先に喜び、お祝いをすることで秋の豊作を引き寄せようとしていたのです。

これが「予祝（よしゆく）」です。「予（あらかじめ）め祝う」と書いて予祝、簡単に言うと「前祝い」ということです。この予祝の考え方は古来日本人の願いの叶え方であり、現代にも通ずる考え方なのかもしれません。

【前祝いする→成功のイメージを脳が記憶する→成功のイメージが具体化・現実化する】というメソッドが成り立ち、これにより、夢や目標が現実になんぞ近づきます。

最近、古代日本人の成功引き寄せ法則を学ぶ「予祝セミナー」なるものが開催されていて、受講者が後を絶たないと聞きました。

その予祝セミナーの第一人者的な存在が大嶋啓介さんです。大嶋さんは、現在、夢と希望を与える講演家として、日本全国で年間300本を超える講演をされています。大嶋さんは、もともとは、居酒屋「てっぺん」の創業者として知られ、てっぺんの『本気の朝礼』は、数々のメディアに取り上げられ、日本中で話題となりました。この頃から、てっぺんの朝礼研修を取り入れる企業や学校が増えました。

また、日本オリンピック代表のソフトボールのチームに朝礼研修を行い、北京オリンピックでは金メダルに貢献。さらに、2015～2019年にかけて、高校野球の約50校にチーム強化のためのメンタル研修を行い、そのうちの19校が甲子園出場を果たしている超一流の講師です。

今年1月、私が毎年参加している福島市の(株)こんのが主催する新春講演会の講師が大嶋啓介さんでした。今回の講演テーマである「本気のチームづくり」のエッセンスをいただきたいと考え、野球部の1・2年生部員とともに大嶋さんの講演会に出かけてきました。

講演内容もとても素晴らしいものでしたが、講演会終了後に、紺野社長の粋な計らいで、講師控室に本校の野球部員を入れていただき、大嶋さんからこんな話をさせていただきました。

「高校野球はアマチュアスポーツです。高校球児がすることですから、そんなに大きな差なんてないはず。もし、差があるとしたら、それは、思い込みの差ではないでしょうか。どれだけ、皆さんが甲子園でプレーをしている姿を想像しながら、練習に取り組んでいるか。どれだけ、甲子園で校歌を歌っている姿を想像しながら、毎日バットを振れているか。実はそれだけの差なんです。思い込みが変われば結果は変わります。

昔の人たちは、予祝をしながら、いつも黄金色の稲穂が果てしなく広がる世界を、昨年以上の収穫を想像していたはず。残念ながら私たち人間が想像できないことは現実に至りません。しかし、前祝いすることで、イメージが具体化され、現実を引き寄せてくれます。

弱気や不安はパフォーマンスを下げます。しかし、できる・やれるという前向きな考えはパフォーマンスを向上させます。さらに、人間が最もパフォーマンスを発揮できるのは、ワクワクして、楽しい時です。今日の講演でお伝えをした予祝ワークをして、ワクワク度を上げてから練習や試合に臨んでみてください。きっと皆さんの「思い込み」が質の高い練習や試合を勝利へと導いてくれるはず。皆さんの活躍をお祈りしています」と。

実は以前、私も予祝をしたことがあります。昨年6月、夏の選手権大会前に野球部の父母会が主催する激励会が開催され、その会の乾杯の発声をお願いされていました。乾杯前の挨拶では、前述したような予祝の話をしました。そして、ご参会の皆さんと予祝乾杯をしました。ただ、この会の中では、「甲子園」という言葉がNGワードになっていましたので、「福島県大会優勝をお祝いして、乾杯！」と言って、皆で予祝を行いました。

結果は、王者聖光学院を猛追するも、惜しくもベスト8で終わってしまいました。やはり、一度予祝したぐらいで、高校野球の県大会で優勝できるなんて、そんなにうまくできた話はありません。

しかし、9月の秋季大会では、なんと本校が53年ぶりの福島県大会優勝を果たしたのです。少しタイムラグはありましたが、あの時、予祝したことが現実になりました。どうやら、予祝には言葉では表せない不思議な力が宿っているようです。

高度情報化社会と呼ばれる現代ではありますが、私たち人間の力では、どうにもできないことがまだまだたくさんあります。そんな時は、最先端ばかりを追いかけず、少し立ち止まって、先人たちの叡智に触れてみることをオススメします。

そういえば、若手教員と呼ばれていた頃、修学旅行前に「お天気祭り」という名の飲み会がありました。私は「お天気祭り（東北地方に伝わるもの）」という言葉も知りませんでした。先輩の先生に「お天気祭り？何ですか、それ？」って聞いたら、「修学旅行中の天候が良好で、事故・けがなく全員が無事に帰ってこられて、行事が大成功したことを前祝いするんだよ」と教えてくれました。その時、私は「前祝い？」にあまりピンときませんでした。数年前になって、気づきかされました。あれが、予祝だったことを。